

文化祭で「渡邊祐策」演劇

神原中合唱コンや総合発表も

神原中（岡田浩典校長、168人）で19、20の両日、文化祭「Lino」が開かれた。19日はクラス対抗の合唱コンクール、英語科発表、20日は2、3年の総合発表、吹奏楽演奏などがあり、生徒一人一人が輝いた。

3年生は総合的な学習の環境として取り組んできた演劇「僕と私と祐策と」を上演した。

膝のけがでサッカー選手になる夢を絶たれて荒れていた少年タクヤとその友人たちは、突然「昔の宇部」にタイムスリップし、宇部発展の礎を築いた渡邊祐策に出会う。



熱演する3年生（神原中で）

家庭の事情で教師になる夢を諦めざるを得なかった祐策が、幾多の苦難を

乗り越えて宇部を「炭鉱のまち」から「化学工業のまち」に変えたことを知ったタクヤは、祐策のように人に夢と希望を与えられる人間になるという新たな志を抱くストーリー。

64人全員で演者、脚本、大道具、照明などの役割を分担。約30分の熱演に幕が下りると、生徒や保護者らから大きな拍手が送られた。

脚本担当グループのリーダーを務めた松井美樹さんは「1年の時に総合的な学習で神原、見初地区が炭鉱によって発展した歴史を勉強した。今回は学習の集大成として、宇部のために尽力した渡邊祐策さんの人物像を描きたかった」と話した。

各グループのイメージをすり合わせるのに苦労したという。「きょうは出演者の声がよく通っていいせりふの間違いも無く、とてもよかった」と、ほっとした表情を見せた。